

皆さん、おはようございます。

本日、令和5年2月6日より4年間、大木町政を任された
広松栄治です。どうぞ、よろしく申し上げます。

それでは、本町のまちづくり政策の実現を目指すための訓
示を申し上げます。

大木町の職員として自信と誇りを持って本町のまちづく
りに邁進していただきたいと思っています。

自信とは、大木町役場で町民の皆さんのために働きたい、
本町発展のために尽力したいと強い思いで入庁された皆さ
んです。その思いや気概は、誰よりも強く、また、知識や経
験則など年数を重ねるごとに深みが増してきていると存じ
ます。

次に誇りについて、本町のまちづくり、これまで町民の皆
さんとの対話を重視して様々な施策、事業を行い、そのこと
が町民と行政による協働のまちづくり、信頼された町政につ
ながっていると認識しています。

特に資源ごみの分別、環境政策は持続可能なまちづくりの成功例として高く評価されていますし、今回の選挙戦において多くの町民の皆さんが大木町で暮らしていることの誇り、郷土愛を感じ取ることが出来ました。

本町の職員として、自信と誇りをもって職務に専念していただきますようお願いいたします。

職務遂行を行うための基本についてお話しします。

まずは、対話重視によるまちづくり、開かれた町政は透明性と説明責任を果たすことです。次にP D C Aサイクル、Plan（計画）、Do（実行）、Check（測定・評価）、Action（対策・改善）の検証プロセスを循環させ、政策実現を目指すことです。政策の成果目標とゴール時期を明確に定め、その達成に向けた職務遂行をお願いします。

人口減少、少子高齢化の社会、生産年齢人口層は減少し、国家財政も大変厳しく、本町の財源も限られています。そのような状況の中に、今後、公共施設の更新など、財政負担は避けられないと認識しています。

このような現状認識をしている私の政策は、大木町自治総合計画に追加する形で去る1月22日に行われました大木町の未来を考える公開討論会討議資料でお示しした重要施策及び各項目内容と質疑において発言したこととなります。

職員の皆さんには、自治総合計画及び公開討論会資料を基に、どの世代においても住民満足度の高い政策実現を目指すことを念頭に、施策、事業に取り組んでいただきますよう、お願いします。

特に幹部職員においては、費用対効果が見込めないものや成果が発現しない施策、事業は見直すなど、思い切った切り込みを行ってください。

これまでやってきたからなど、前例踏襲の考えは改め、町民サービスの向上、本町の発展に資する施策、事業を実行し、一人ひとりが安心して豊かに暮らせる町の実現に、役場組織が一丸、チーム大木町となり、さらに各所属課の職員の皆さんの能力開発、成長教育とそれを発揮させるコーチングをお願いします。

本町のまちづくりのエンジンは職員の皆さんであります。
町民の皆さんの負託に応えられる行政経営を行うことが私
たちの使命です。

そのために私は、職員の皆さんのお手本にならなければな
らないと考えています。

私の行動や言動、また、振る舞いが職員の皆さんに影響を
与えますので、常に意識改革、探究心を持ち学んで参ります。

結びに、大木町に対する郷土愛を感じる言葉を支援者より
いただきましたので、それを紹介して訓示といたします。

温かい心はあいさつから

笑顔と思いやりは喜びに

幸せの大木町に

この言葉を朝礼において職員の皆さんで復唱いただけれ
ばと思います。どうぞよろしくお願ひし、第十代大木町長就
任の訓示といたします。